

ゆい  
**結通信**

**NO. 45**

2020年5月25日

## ピンチをチャンスに！

牧野直子

### 第12回総会&交流会を終えて

2月15日、第12回総会&交流会を無事終えることができました。当日は箕面文化・交流センターにたくさんの方が参加してくださり、後半の交流会では主に「助け合い活動」について活発な意見交換ができました。これからの超高齢社会では、公的なサービスだけでは間に合いません。「結みのお」ならではの助け合いの活動をどう展開していったらいいのかを考えるために会員の方にアンケートをお願いしました。団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題はもう目の前に来ています。待ったなしです。

### 新型コロナウイルス拡がる

総会の頃はまだコロナ騒動は中国武漢での出来事という感じでした。しかしその後、あっという間に世界中に拡散し、4月初めには世界で感染者が100万人を越える事態になりました。日本でも感染者が拡がり、ついに緊急事態宣言が出されました。公共施設は閉鎖され、イベントが次々と中止に追い込まれる事態となりました。「パンデミック」「オーバーシュート」といったなじみのない言葉が飛び交い、テレビでは連日コロナ騒動のニュースばかり。ゴールデンウィークにも関わらず家に閉じこもらずを得ない事態となり、閉塞感に覆われています。

### コロナウイルスが意味するものは？

生物学者の福岡伸一さんによると「ウイルス」とは生物と無生物の間に漂う存在で、これを根絶したり、撲滅したりできないそうです。「ウイルスを受け入れて生きていくしかない」彼はそう言っています。免疫力をつけて、ワクチンが開発されるのを待つ？それまでには長期戦を覚悟しなければなりません。一時しのぎではなく、長期にわたって、今の自粛生活を続けられるでしょうか？覚悟をきめてコロナウイルスの存在を前提にした生活スタイルに変えていくしかないのでしょうか？

地球の誕生は46億年前。ウイルスの出現は35億年前だそうです。そして人類は誕生からたかが1万年。その中でも産業革命以降、とりわけ資本主義社会のグローバル化にともない、人間は地下資源の奪い合いや森林破壊によって地球温暖化を加速させ、地球環境を大きく変えてきました。今回のコロナウイルス騒動は「自然への畏敬の念」が薄れてきたことに対する警告ではないかと思われてなりません。

### 競争社会から共生社会へ

戦後生まれの私は戦争を経験していません。戦後の高度成長期に大きくなり、1964年の東京オリンピック、そして1970年の大阪万博を経て、大人になりました。経済に翳りが出始め、低成長の時代に入りましたが、それでも日本は資本主義経済の路線を走り続けてきました。それが今、「コロナウイルス」という存在によってそれも世界中の人が同じ危機に直面して、ともに乗り越えようとしています。今こそ命を何より大事にする社会をめざす時です。

### 「結」の助け合いはどうあればいいのか？

「知恵を出し合う」「心を寄せ合う」ことを通してこれからの高齢社会を共に生きていこうというときに、「肩を寄せ合ってはダメ」「近づいてはダメ」「相手とは距離をとって」というのです。今まで言ってきたこととは一見矛盾します。

これまでは自分の行為が他の人に影響を与えることを考えて行動するという意識はあまりありませんでした。国を超えて広い世界に目を向けて、今自分にできることは何かと考える機会が与えられ、そういう試練に今立たされているのだと改めて思います。「離れていてもできる助け合いとは？」を考えましょう。そしてこのピンチを乗り越え、チャンスにしていきましょう！あらたな助け合いの形が生まれるかもしれません。